

第 5 次静岡市上下水道事業中期経営計画

令和 5 年度～令和 8 年度

事務事業評価（進行管理）シート



令和8年7月31日
静岡市上下水道局

事務事業の評価基準

第5次中期経営計画に掲げる事務事業について、設定した活動指標の目標値と実績値を比較した達成度から、アルファベット小文字の「s」から「c」までの4段階で評価しています。政策変更等で実施しなかった事業は「－」を記入しています。

評価の区分は、下表のとおりです。

評価区分	数値目標があるもの	数値目標がないもの
S	目標を上回る (105%以上)	・目標を上回る進捗である。
a	目標どおり (90%以上105%未満)	・目標どおりの進捗である。
b	目標を下回る (70%以上90%未満)	・目標をやや下回る進捗である。
c	目標を顕著に下回る (70%未満)	・目標を顕著に下回る進捗である。
－	実施せず	・実施する必要が無くなった。 ・政策変更等により、実施が不可能となった。

政策1 施策(1)	① 水道管の地震対策【水道】	計画登載ページ [P17~18]
--------------	----------------	---------------------

活動目標	「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、基幹管路322.7kmのうち、令和4(2022)年度末までに管延長133.8kmの耐震化が完了している。令和7(2025)年度以降は「静岡市上下水道耐震化計画」に基づき357箇所のうち令和12(2030)年度までに40の重要施設※1に接続する水道管の耐震化を進める。令和8(2026)年度までに新たに取水から重要施設を結ぶ管の耐震化工事を行うことで、計6箇所の重要施設に対する耐震性を確保する。 ※1:重要施設とは・・・災害拠点病院、災害時に指令機能を有する施設(警察、消防、県・市庁舎等)、避難所など	
------	--	--

(活動指標)

実施内容・活動指標		R1~4年度 (2019~2022) 計	R5~8年度 (2023~2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
基幹管路 の耐震化工事	目標値		1.9km	1.9km	—	—	—
	実績値	7.8km		1.2km	—	—	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		356,591	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		93,641	—	—	
		決算(千円) ※見込み		116,840	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		333,391	—	—	
水道管が耐震 化されている 重要施設の数	目標値		6箇所	—	1箇所	2箇所	3箇所
	実績値	—		—	1箇所	1箇所	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	1,885,777	3,574,777	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	333,391	1,545,568	
		決算(千円) ※見込み		—	447,013	1,563,342	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	1,545,568	3,557,003	

自己評価	説 明
C	水道管の地震対策について、(活動指標)水道管が耐震化されている重要施設の数(令和7(2025)年度計画「2箇所」)に対し、「1箇所」を実施した。【活動指標達成状況:50%】 具体的な取組として、重要施設である「透析病院(駿河区)」までの水道管を耐震化した。この結果、(成果指標)重要施設への耐震化率については、令和7(2025)年度計画0.8%(3施設/357施設)に対し、0.6%(2施設/357施設)となった。【成果指標達成状況:75%】

(自己評価が「a」以外となった理由等)

令和7(2025)年度計画「2箇所」に対し、令和7(2025)年度実績は「1箇所」であった。これは、上伝馬取水場から与一配水場間の導水管布設替工事において、上伝馬取水場のポンプを停止し、施工する計画であったが、令和7(2025)年9月から渇水状態となり、与一取水ポンプの地下水位が低下したため、与一配水場へ送水する上伝馬取水場のポンプを停止することができなかった。このため、上伝馬取水場から与一配水場間の仮配管工の施工が必要となったことから、工事の完了が遅延したためである。なお、令和8(2026)年6月に当該工事は完成している。

(自己評価が「a」未満の場合、改善に向けた取組方針)

今回の遅延は気象状況によるものであり、想定外の事象であったが、これまで以上に早期発注、早期完成に努め、計画的に工事の発注を行う。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
重要施設への耐震化率	目標値		—	0.3%	0.8%	1.6%
	実績値	—	—	0.3%	0.6%	
R7成果指標算出式		$(2\text{施設} \div 357\text{施設}) \times 100 = 0.56\%$				

政策1 施策(1)	② 水道施設の地震対策【水道】	計画登載ページ 〔P19～20〕
--------------	-----------------	---------------------

活動目標	「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、令和4(2022)年度末までに配水池など3箇所の耐震化が完了している。令和7(2025)年度以降は「静岡市上下水道耐震化計画」に基づき、上下水道共通262箇所及び下水道処理区域外95箇所の重要施設※1に接続する水道施設(取水場:80施設、浄水場:18施設、配水池:94施設)のうち、令和8(2026)年度末までに1箇所の配水池の耐震化を進める。※2 ※1:重要施設とは・・・災害拠点病院、災害時に指令機能を有する施設(警察、消防、県・市庁舎等)など ※2:災害拠点病院や指令機能を有する施設に接続する取水場などの優先して耐震化を進める水道施設については整備が完了しているため、令和8(2026)年度までの取組はない。	
------	--	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
配水池の 耐震化工事	目標値		3箇所完了	1箇所完了	1箇所完了	0箇所	1箇所完了
	実績値	3箇所完了		1箇所完了	1箇所完了	0箇所	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		292,928	330,323	1,401,383	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		75,119	31,232	279,054	
		決算(千円) ※見込み		329,348	49,078	536,821	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		31,232	279,054	875,749	
配水池の 耐震診断	目標値		4施設	—	—	4施設	0施設
	実績値			—	—	4施設	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	72,589	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	26,983	
		決算(千円) ※見込み		—	—	70,319	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	0	
配水池の 耐震化設計	目標値		1施設	—	—	1施設	0施設
	実績値			—	—	0施設	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	15,000	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	0	
		決算(千円) ※見込み		—	—	0	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	0	

自己評価	説 明
a	水道施設の地震対策について、(活動指標)配水池の耐震化工事の令和7(2025)年度の活動成果は、目標の「0箇所」に対して実績は「0箇所」であった。【活動指標達成状況:100%】 具体的な取組として、向敷地配水場配水池の更新を令和6(2024)年度から継続実施しており、令和8(2026)年度完成予定である。 (活動指標)配水池の耐震診断の令和7(2025)年度の活動成果は、目標の「4施設」に対し、実績は「4施設」であった。【活動指標達成状況:100%】 具体的な取組として、西奈配水池外3施設の耐震診断を実施した。 (活動指標)配水池の耐震化設計の令和7(2025)年度の活動成果は、目標「1施設」に対し、実績は「0施設」であった。これは、対象の富士見が丘配水池が、耐震診断の結果で「耐震性能あり」の判定を受けたことから、耐震化を図る必要がなくなったためである。【活動指標達成状況:0%】 この結果、令和7(2025)年度の(成果指標)配水池の耐震化率は、目標の「53.2%」に対し実績「54.3%」となった。【成果指標達成状況:102%】 配水池や浄水施設の耐震化工事や地震対策を進めることにより、自然災害時の「配水池や浄水施設の信頼性・安全性」が高まる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
配水池の 耐震化率	目標値		52.1%	53.2%	53.2%	54.2%
	実績値	51.1%	52.1%	53.2%	54.3%	—
R7成果指標算出式		51施設÷94施設×100 = 54.26%				

政策1 施策(1)	③ 下水道管の地震対策【下水道】	計画登載ページ 〔P21～22〕
--------------	------------------	---------------------

活動目標	「静岡市下水道総合地震対策計画」に基づき、特に重要な下水道管※1に位置づけた363.7kmのうち、令和4(2022)年度末までに耐震性能の確認と各種対策により、251.6kmの耐震化が完了している。令和7(2025)年度以降は当該計画に加えて「静岡市上下水道耐震化計画」に基づき、262箇所の重要施設※2に接続する下水道管を含めた369.3kmの耐震化を進める。令和8(2026)年度末までに新たに2箇所の重要施設から浄化センターを結ぶ管の耐震化工事を行うことで、計45箇所の重要施設に対する耐震性を確保する。 ※1 特に重要な下水道管とは…《重要な下水道管》*622.2kmのうち、緊急輸送路に埋設された管や災害拠点病院などの排水を受け持つ管を《特に重要な下水道管》とした。 ※2 重要施設とは…災害拠点病院、避難所、防災拠点(警察、消防、県・市庁舎等)など	
------	---	--

(活動指標)

実施内容・活動指標		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
特に重要な 下水道管の 耐震化工事	目標値		14.5km	3.7km	3.6km	—	—
	実績値	12.5km		5.4km	3.5km	—	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		1,022,640	931,850	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		909,141	984,008	—	
		決算(千円) ※見込み		916,579	1,037,092	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		982,578	845,044	—	
下水道管が耐 震化されてい る重要施設の 数	目標値		2箇所	—	—	1箇所	1箇所
	実績値			—	—	1箇所	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	1,104,232	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	845,044	
		決算(千円) ※見込み		—	—	1,066,497	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	798,573	

自己評価	説 明
a	下水道管の地震対策について、(活動指標)下水道管が耐震化されている重要施設の数 令和7(2025)年度計画「1箇所」に対し「1箇所」実施した。【活動指標達成状況:100%】 具体的な取組として、対象施設である静岡県立総合病院からの排水系統の下水道管の耐震化工事を発注し完成した。この結果、(成果指標)重要施設への耐震化率は令和7(2025)年度計画「16.7%」に対し実績「16.7%」となった。【成果指標達成状況:100%】 下水道管の地震対策を進めることにより、災害時における災害拠点病院等の排水機能の確保や、緊急輸送道路等の交通機能の確保につながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
重要施設への耐震化率	目標値		—	—	16.7%	17.1%
	実績値	16.4%	—	—	16.7%	

R7成果指標算出式	重要施設への耐震化率 $\left(\frac{\text{下水道管が耐震化された重要施設数}}{\text{重要施設数[262箇所]}} \right) \times 100(\%)$ $= \left[\frac{\{ \text{R4末実績(43箇所)} + \text{R7実績(1箇所)} \}}{262 \text{地区}} \right] \times 100$ $= 16.7\%$
-----------	--

政策1 施策(1)	④ 下水道施設の地震・津波対策 【下水道】	計画登載ページ [P23～24]
--------------	-----------------------	---------------------

活動目標	「静岡市上下水道耐震化計画」に基づき、下水道施設の地震・津波対策で施設の強靱化を図り、想定される巨大地震に備え危機管理を強化する。 浄化センター・ポンプ場の揚水施設が地震や津波により被災した場合、市内のマンホール等より汚水が溢れてしまうため、「揚水施設10施設(6浄化センター、4ポンプ場)」の対策を優先的に実施していく。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
揚水施設の耐震診断	目標値		5施設	—	—	2施設	3施設
	実績値	3施設		—	—	0施設	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	220,344	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	0	
		決算(千円) ※見込み		—	—	0	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	216,476	
揚水施設の設計	目標値		3施設	—	—	1施設	2施設
	実績値	0施設		—	—	0施設	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	80,000	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	0	
		決算(千円) ※見込み		—	—	0	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	67,100	
揚水施設工事着工	目標値		3施設	—	—	0施設	1施設
	実績値	0施設		—	—	0施設	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	

自己評価	説 明
C	下水道施設の地震・津波対策について、揚水施設の耐震診断を令和7(2025)年度計画「2施設」に対し、「0施設」であった。【活動指標達成状況:0%】 また、揚水施設の設計を令和7(2025)年度計画「1施設」に対し、「0施設」であった。【活動指標達成状況:0%】 下水道施設の地震・津波対策を進めることにより、災害に対する下水道施設の安全性、危機対応力の向上につながる。

(自己評価が「a」以外となった理由等)

「下水道施設の耐震対策指針と解説」が改定(令和7(2025)年8月)され、発注済みであった業務に追加検討が発生した。耐震診断については、繰越しとなったが、令和8(2026)年6月に完了した。設計業務については、繰越しとなったが、令和9(2027)年1月に完了予定。

(自己評価が「a」未満の場合、改善に向けた取組方針)

適切に施設の耐震化を行うため、指針や被害想定等の最新情報を確認し、設計に反映させる。また、適宜工程の見直しを行い、令和8(2026)年度中に中島浄化センターの工事着手できるように事業を進める。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
揚水施設の 工事着手率	目標値		—	—	0.0%	10.0%
	実績値	0.0%	—	—	0.0%	
R7成果指標算出式		(工事着手施設数0施設／工事が必要な施設数(10施設))×100(%)				

政策1 施策(1)	⑤ 下水道管の津波対策 【下水道】	計画掲載ページ 〔P25～26〕
--------------	-------------------	---------------------

活動目標	「静岡市下水道施設津波対策計画」に基づき、津波対策が必要な既設の雨水管吐口*全31箇所のうち、令和8(2026)年度末までに新たに3箇所のゲート設置を完了する。
------	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
(雨水管吐口) ゲート設置工 事	目標値		3箇所	1箇所	0箇所	1箇所	1箇所
	実績値	0箇所		1箇所	0箇所	1箇所	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		0	28,000	5,084	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		31,000	0	28,000	
		決算(千円) ※見込み		29,546	0	14,100	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	28,000	5,084	

自己評価	説 明
a	下水道管の津波対策について、(活動指標)ゲート設置工事の完了箇所数は令和7(2025)年度計画「1箇所」に対し「1箇所」となった。【活動指標達成状況:100%】 具体的な取組として、令和6(2024)年度に発注済の「横砂覆盆子雨水管」のフラップゲート設置工事が完了した。この結果、(成果指標)ゲート設置率は、令和7(2025)年度計画「6.5%」に対し実績「6.5%」となった。【成果指標達成状況:100%】 下水道管の津波対策を進めることにより、津波の管路内遡上による上流域の浸水や、土砂等の流入による管路内閉塞の流下機能低下を防ぎ、市民の生命・財産を守ることにつながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
ゲート設置率	目標値		3.2%	3.2%	6.5%	9.6%
	実績値	0.0%	3.2%	3.2%	6.5%	
R7成果指標算出式		ゲート設置率 (ゲート設置完了箇所数／耐津波化が必要な箇所数[31箇所])×100(%) =[{R5実績(1箇所)+R7実績(1箇所)}／31箇所]×100 =6.5%				

政策1	① 雨水管・ポンプ場などの整備【下水道】	計画登載ページ 【P27～28】
施策(2)		

活動目標

「静岡市浸水対策推進プラン」に位置づけた浸水対策地区(市内全41地区)において、下水道部が所管する26地区のうち、令和4(2022)年度までに完了した地区が16地区となった。これを令和8(2026)年度末までに新たに2地区を整備し、18地区の浸水対策を完了する。

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
完了地区数 (累積)	目標値		2地区 (18地区)	1地区 (17地区)	0地区 (17地区)	1地区 (18地区)	0地区 (18地区)
	実績値	5地区 (16地区)		1地区 (17地区)	0地区 (17地区)	1地区 (18地区)	
対策実施地区 数(完了地区 除く)	目標値		8地区	2地区	5地区	7地区	8地区
	実績値	4地区		2地区	2地区	2地区	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		2,252,459	1,839,828	1,705,477	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		1,804,475	1,638,914	781,559	
		決算(千円) ※見込み		1,956,205	1,717,368	1,059,193	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		1,642,344	781,559	1,095,521	

([前年度の評価が「a」未満の場合]改善に向けた取組状況)

気候変動の影響による降雨の激甚化や、静岡県が管理する放流先である巴川の河川整備の進捗状況を踏まえると、事業の実施時期を慎重に検討する必要があると、施設整備を休止している地区が生じている。このため、令和7(2025)年度から「巴川浸水情報システム」の運用を開始し、市内の浸水情報を発信することでソフト対策を充実させ、浸水被害の軽減を図っている。

自己評価	説 明
C	雨水管・ポンプ場などの整備について、(活動指標)完了地区数は令和7(2025)年度計画「1地区」に対し「1地区」となり、対策実施地区数は令和7(2025)年度計画「7地区」に対し「2地区」となった。【活動指標達成状況:28.6%】 具体的な取組として、「大岩三丁目」地区は近年の大雨時においても被害が確認されなかったことから完了とした。また、「永楽町・江尻台町」地区、「長崎新田」地区、「三保」地区、「江尻町・銀座」地区及び「押切・石川新町」地区は、令和7(2025)年度は実施しないこととなった。この結果、(成果指標)浸水対策率は令和7(2025)年度計画「69.2%」に対し実績「69.2%」となった。【成果指標達成状況:100%】

(自己評価が「a」以外となった理由等)

巴川流域に位置する「永楽町・江尻台町」「長崎新田」「江尻町・銀座」「押切・石川新町」地区では、排水先河川である巴川の整備状況を考慮したうえで対策を検討する必要があることや、「三保」地区においては、ハード整備による費用対効果が見込めないことから事業を一時休止する方針に変更となったため、遅れが生じている。

(自己評価が「a」未満の場合、改善に向けた取組方針)

巴川の河川整備の進捗状況や事業の整備効果を踏まえ、残地区の整備方針を検討していく。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
浸水対策率 (対策完了地区数)	目標値		65.3% (17地区)	65.3% (17地区)	69.2% (18地区)	69.2% (18地区)
	実績値	61.5% (16地区)	65.3% (17地区)	65.3% (17地区)	69.2% (18地区)	
R7成果指標算出式		浸水対策率 (浸水対策が完了した地区数／浸水対策が必要な地区数[26地区])×100(%) = [{R4末実績(16地区)+R5実績(1地区)+R7実績(1地区)}／26地区]×100 = 69.2%				

政策1 施策(3)	① 事業継続に必要な応急体制の充実・定着 【共通】	計画登載ページ 〔P29～30〕
--------------	---------------------------	---------------------

活動目標	震災や大規模風水害などの災害等非常時に迅速・的確な対応ができ事業継続が図られるよう、マニュアル等の整備や職員・関係団体への研修・訓練により、一層の応急対応の定着と災害対策本部機能の強化を図る。また、被害状況や局の対応について、市民の皆さんに必要な情報をより伝わり易くなるよう、多様な方法により発信力を高める。
------	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
目的別訓練の実施回数 (本部機能・連携等)	目標値		56回	14回	14回	14回	14回
	実績値	40回		14回	14回	14回	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	
災害・事故等の情報発信力強化 (市長部局との連携)	目標値		災害時総合情報 サイト 構築・運用	情報サイトの基 本計画検討・シス テム開発	システム開発 ・導入	さらなる利便性 向上のための調 査・検討	さらなる利便性 向上のための調 査・検討
	実績値	随時実施		情報サイトの基 本計画検討	情報サイトへ掲 載する情報の内 容検討	情報サイトでの 発信確立と 発信情報の追 加	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	

(〔前年度の評価が「a」未満の場合〕改善に向けた取組状況)

市危機管理課との打合せ回数を増やし、情報サイト(静岡市防災ナビ)に掲載する情報(断水状況、給水拠点の位置情報、下水道の使用制限)とその掲載手法について精査した結果、情報サイト(静岡市防災ナビ)を活用した災害時の上下水道の状況の発信が可能となった。

自己評価	説 明
a	事業継続に必要な応急体制の充実・定着について、(活動指標)目的別訓練の実施を令和7(2025)年度計画14回に対し、14回実施した。【活動指標達成状況:100%】また、災害・事故等の情報発信力強化については、(活動指標)さらなる利便性向上のための調査・検討に対し、情報サイト(静岡市防災ナビ)での発信確立と発信情報の追加を実施した。【活動指標達成状況:目標どおりの進捗である】 具体的な取組として、市総合防災訓練や他都市との合同防災訓練など本部機能や他都市連携の強化を目的とした訓練を14回実施し、この結果、(成果指標)災害対策訓練への局職員・関係団体職員の参加者数は、令和7(2025)年度計画「延べ970人」に対し、「延べ666人」となった。【成果指標達成状況:68.6%】 災害・事故等の情報発信力強化については、市危機管理課と調整のうえ、情報サイト(静岡市防災ナビ)での「断水状況」「給水拠点の位置情報」「下水道の使用制限」の情報発信を可能としたとともに、新たな掲載項目として「給水拠点の災害時開設状況」を追加した。 事業継続に必要な応急体制の充実・定着を進めることにより、上下水道局の防災力の強化につながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
災害対策訓練 への局職員・ 関係団体職員 の参加者数	目標値		延べ790人	延べ880人	延べ970人	延べ1,060人
	実績値	延べ700人	延べ533人	延べ577人	延べ666人	

政策1 施策(3)	② 給水拠点等の整備・充実【水道】	計画登載ページ 〔P31～32〕
--------------	-------------------	---------------------

活動目標	「静岡市上下水道耐震化計画」に基づき、水道の取水施設から災害拠点病院や災害対策本部、給水拠点となる避難所などの重要施設へ水を送るルートの耐震化を進めていく。この耐震化の整備と並行して、発災時に給水車が不足することが懸念され、給水車による給水活動を代替えるため、発災後3日間で1日1人3リットルの飲用水の確保が困難な13地域^{※1}に対し、耐震化済みの10箇所の配水池を活用し臨時給水所の整備を目指す。 ※1:市内中学校区40の内13の地域(中山間地域3地区を除く)
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
給水拠点の 施設整備数	目標値		8箇所	2箇所	—	—	—
	実績値	3箇所 (うち管方式1箇所)		1箇所	—	—	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		99	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		99	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	
配水池を活用 した給水拠点 の整備数	目標値		9箇所	—	4箇所	5箇所	—
	実績値	1箇所		—	4箇所	5箇所	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	13,982	25,000	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	13,982	17,477	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	

自己評価	説 明
a	給水拠点の整備・充実について、配水池を活用した給水拠点の整備数は令和7(2025)年度計画「5箇所」に対して「5箇所」を実施した。【活動指標達成状況:100%】 具体的な取り組みとして、田町配水場、与一取水場、八幡配水場、庵原北部配水場、茂野島中継ポンプ場に臨時給水所の整備を完了した。この結果、配水池を活用した給水拠点の整備率は令和7(2025)年度計画100.0%(10/10箇所)に対し、実績100.0%(10/10箇所)となった。【成果指標達成状況:100%】 給水拠点の整備・充実を進めることにより、災害時の円滑な給水活動につながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
給水拠点の 施設整備数	目標値		2/71箇所	—	—	—
	実績値	1/71箇所	1/71箇所	—	—	
貯留水で一週 間に必要とな る水を供給で きる人数	目標値		213,700人	—	—	—
	実績値	208,000人	211,300人	—	—	
配水池を活用 した給水拠点 の整備率	目標値		—	50.0%	100.0%	—
	実績値	—	—	50.0%	100.0%	
R7成果指標算出式		((R4)1箇所、(R6)4箇所、(R7)田町配水池、与一取水場、八幡配水池、庵原北部配水池、茂野島中継ポンプ場)÷10箇所×100=100.0%				

政策2 施策(1)	① 水道管の更新【水道】	計画登載ページ 【P33～34】
--------------	--------------	---------------------

活動目標	本市には約2,700kmのうち、法定耐用年数を超過した水道管が約900kmあることから、お客様サービスを安定的に継続していくため、老朽化した水道管を更新していきます。 令和6(2024)年度から今までの時間計画保全から水道管にAI技術を活用し、過去の漏水履歴や整備年度に基づき水道管の余寿命を診断し、寿命が短い管路を重点的に監視する状態監視保全に切替え、機能劣化(漏水)している管路の更新を進め、令和8(2026)年度までの間に61.5kmの水道管を更新します。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
水道管の 更新工事	目標値		61.5km	25.2km	19.5km	8.8km	8.0km
	実績値	50.1km		28.0km	18.7km	10.0km	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		4,067,229	2,805,335	2,092,828	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		3,244,086	2,233,169	731,089	
		決算(千円) ※見込み		4,874,952	4,009,862	2,383,970	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		2,233,169	731,089	439,947	

自己評価	説 明
S	水道管の更新について、水道管の更新工事を令和7(2025)年度計画「8.8km」に対し「10.0km」実施した。【活動指標達成状況:113.6%】 具体的な取組として、葵区常磐町一丁目外配水管布設替工事外43件を実施し、この結果、管路の更新率(年間)は、令和7(2025)年度計画「0.7%」に対し実績「0.7%」となった。【成果指標達成状況:100%】 水道管の更新を進めることにより、漏水による事故や、濁水の発生を軽減する。

(自己評価が「a」以外となった理由等)

入札差金により追加発注した工事が完成したため全体整備延長が増加した。

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
管路の 更新率 (年間)	目標値		1.0%	0.7%	0.7%	0.7%
	実績値	0.7%	1.1%	0.7%	0.7%	
R7成果指標算出式		$17.5\text{km}(\text{更新延長}10.0\text{km}+\text{地震対策整備延長}7.5\text{km})/2,705.8\text{km}(\text{水道管総延長})\times 100=0.65\%$				

政策2 施策(1)	② 水道施設の更新【水道】	計画登載ページ 〔P35～36〕
--------------	---------------	---------------------

活動目標	日常点検や法定点検の結果に基づき、劣化の程度などから設備の健全度評価を実施し、評価により、近い将来、機能の発揮が困難になると判断した設備のうち、令和8(2026)年度末までに新たに210設備の更新工事を実施します。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
機械・電気設備の更新工事	目標値		210設備	74設備	55設備	41設備	40設備
	実績値	115設備		74設備	62設備	38設備	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		630,012	493,099	1,094,225	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		455,238	72,237	8,657	
		決算(千円) ※見込み		374,770	390,511	733,860	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		72,237	8,657	57,401	

自己評価	説 明
a	水道施設の更新について、(活動指標)機械・電気設備の更新工事を、令和7(2025)年度計画「41設備」に対し、「38設備」を実施した。【活動指標達成状況:92.7%】 具体的な取組として、門屋浄水場中央監視制御設備更新工事ほかを実施し、この結果、(成果指標)設備の老朽化に起因する、水道の給水停止日数は、令和7(2025)年度計画「0日」に対し実績「0日」となった。【成果指標達成状況:100 %】 設備を計画的に更新していくことで、老朽化による設備の機能不全を抑えることができ、水道の給水の停止を未然に防ぐことにつながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
設備の老朽化に起因する、水道の給水停止日数	目標値		0日	0日	0日	0日
	実績値	0日	0日	0日	0日	

政策2 施策(1)	③ 下水道管の改築【下水道】	計画登載ページ 〔P37～38〕
--------------	----------------	---------------------

活動目標	「静岡市公共下水道再構築基本計画(管路編)」に基づき、下水道管の耐震化工事を進めるとともに、定期的な点検・調査によって改築が必要となった老朽化した下水道管のうち、令和8(2026)年度末までに新たに25.4kmの改築工事を実施する。
------	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
下水道管の 改築工事	目標値		25.4km	6.8km	6.2km	6.2km	6.2km
	実績値	17.1km		8.8km	7.3km	7.7km	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		1,703,800	1,585,654	1,619,207	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		304,745	257,842	156,645	
		決算(千円) ※見込み		1,592,434	1,498,362	1,504,490	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		300,186	126,645	29,722	

自己評価	説 明
S	下水道管の改築について、(活動指標)下水道管の改築工事を令和7(2025)年度計画「6.2km」に対し、「7.7km」実施した。【活動指標達成状況:124.2%】 具体的な取組として、老朽化が進んでいる処理区のテレビカメラ及び目視調査、改築設計及び工事を実施し、この結果、(成果指標)管きょ100km当たりの陥没箇所数は令和7(2025)年度計画「0.4箇所以下」に対し、「0.20箇所」となった。【成果指標達成状況:200.0%】 下水道管の改築を進めることにより、管の老朽化が原因で起こる道路陥没の発生の抑制につながる。

(自己評価が「a」以外となった理由等)

令和6(2024)年度の工事発注に伴い発生した入札差金を活用して令和7年度分の工事を前倒し発注し、令和7(2025)年度に完了したものが追加されたため、目標より多くの延長を実施することができた。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
管きょ100km 当たりの 陥没箇所数	目標値		0.4箇所以下 /100km	0.4箇所以下 /100km	0.4箇所以下 /100km	0.4箇所以下 /100km
	実績値	0.20箇所 /100km	0.44箇所 /100km	0.36箇所 /100km	0.20箇所 /100km	
R7成果指標算出式		(R7道路陥没箇所数)5箇所/(維持管理延長)2,530km×100				

政策2 施策(1)	④ 下水道施設の改築【下水道】	計画登載ページ 〔P39～40〕
--------------	-----------------	---------------------

活動目標	「静岡市公共下水道再構築基本計画(施設編)」に沿って策定した「静岡市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、点検・調査によって改築が必要となった老朽化した設備のうち、令和8(2026)年度末までに新たに36設備の改築工事を実施する。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
設備の 改築工事	目標値		36設備	5設備	11設備	17設備	3設備
	実績値	39設備		5設備	10設備	16設備	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		2,230,149	2,577,102	2,165,524	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		508,631	1,447,158	1,664,075	
		決算(千円) ※見込み		1,265,936	2,456,294	3,034,210	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		1,447,158	1,537,639	785,030	

自己評価	説 明
a	下水道施設の改築について、設備の改築工事を令和7(2025)年度計画「17設備」に対し、「16設備」実施した。【活動指標達成状況:94.1%】 具体的な取組として、中島浄化センター汚水ポンプ設備工事や高松浄化センター雨水沈砂池設備改築工事などを実施し、この結果、設備の老朽化に起因する下水道の使用制限日数は令和7(2025)年度計画「0日」に対し、実績「0日」となった。【成果指標達成状況:100%】 設備を計画的に改築することにより、老朽化による機能不全を抑えることができ、下水道の使用制限を未然に防ぐことにつながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
設備の老朽化 に起因する、 下水道の使用 制限日数	目標値		0日	0日	0日	0日
	実績値	0日	0日	0日	0日	

政策2 施策(2)	① 水道施設の統廃合【水道】	計画登載ページ 〔P41～42〕
--------------	----------------	---------------------

活動目標	「静岡市水運用計画」に基づき、統廃合が可能な水道施設のうち、令和8(2026)年度末までに1施設を廃止する。
------	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
施設の統廃合	目標値		1施設廃止	1施設廃止	—	—	—
	実績値	3施設廃止		—	—	—	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	

(〔前年度の評価が「a」未満の場合〕改善に向けた取組状況)

南幹線ブロック化が完了せず、施設廃止作業に必要なバルブ操作ができなかったため、南幹線ブロック化に伴う管路工事の進捗確認を行った。

自己評価	説 明
C	令和6(2024)年度に引き続き、水道施設の統廃合について、(活動指標)施設の統廃合を、令和5(2023)年度計画「1施設廃止」に対し、実施できなかった。【活動指標達成状況：0%】 具体的な取組として、谷津山配水池の廃止作業に必要な南幹線ブロック化に伴う管路工事について、関係事業課と情報共有し、進捗状況の把握に努めた。 (成果指標) 維持管理費縮減効果については、令和7(2025)年度実績「約2,020万円/年」は前年度までの実績のため変更はない。【成果指標達成状況：87.1%】 水道施設を統廃合することにより、維持管理費の軽減が図られる。(電気料金、テレメータ回線使用料)

(自己評価が「a」以外となった理由等)

南幹線ブロック化が完了していないため、施設廃止作業に必要なバルブ操作ができなかった。

(自己評価が「a」未満の場合、改善に向けた取組方針)

引続き、南幹線ブロック化に伴う管路工事の進捗状況の把握に努める。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
維持管理費 縮減効果	目標値		約2,020万 円/年	約2,320万 円/年	約2,320万 円/年	約2,320万 円/年
	実績値	約2,020万 円/年	約2,020万 円/年	約2,020万 円/年	約2,020万 円/年	
R7成果指標算出式		約2,020万円/年(令和6年度実績値) + 0円/年(令和7(2025)度縮減額)				

政策2 施策(2)	② 配水ブロックの再編【水道】	計画登載ページ 〔P43～44〕
--------------	-----------------	---------------------

活動目標	「静岡市水運用計画」に基づき、地形、河川、鉄道、幹線道路、水道施設の配置状況や供給可能性に合わせ、各施設から配水するエリアの再編を行う。 また、配水ブロック化等に併せて必要となる水道管の整備も順次進めていく。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
配水ブロック 再編	目標値		5箇所	0箇所	1箇所	2箇所	2箇所
	実績値	—		1箇所	0箇所	0箇所	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	109,450	30,325	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	109,450	30,325	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	0	—	

(〔前年度の評価が「a」未満の場合〕改善に向けた取組状況)

①門屋・与一ブロック化は、道路部による水道町伊呂波町線の道路拡幅事業と同調して施工を予定しているが、道路事業の用地交渉が難航しており、具体的な施工時期は未定となっている。このため引き続き、道路部と施工時期の調整を図っていく。
--

自己評価	説 明
C	配水ブロックの再編について、(活動指標)配水ブロック再編を令和7(2025)年度計画「2箇所」に対し「0箇所」であった。【活動指標達成状況:0%】 具体的な取組として、②南幹線ブロック化は、切替作業に必要な水道管の布設替工事が過去の入札不調により工事が遅延し、ブロック化が実施できなかった。③小鹿減圧ブロック化(縮小)は、現地調査した結果、切替する県河川を横断する水道管の腐食が確認され、更新工事が必要となったため、ブロック化が実施できなかった。この結果、(成果指標)配水ブロック再編が完了した割合は令和7(2025)年度計画「21%」に対し実績「7%」となった。【成果指標達成状況:33%】 配水ブロックの再編を進めることにより、効率的な配水や災害時の早期復旧につながる。

(自己評価が「a」以外となった理由等)

②南幹線ブロック化は、馬淵取水場から南幹線ブロックに配水している水道管の切替工事を実施し、ブロック化に向けた一部工事は完成したが、葵区東町における布設替工事は、過去4回入札不調となっている。このため、令和7(2025)年度は、道路管理者及び交通管理者と再協議するとともに、工事の設計条件を再検討したことにより、工事発注を見送ったため、ブロック化が実施できなかった。 ③小鹿減圧ブロック化(縮小)は、切替する水道管が腐食しており、当該箇所の更新工事が必要となったため、ブロック化が実施できなかった。

(自己評価が「a」未満の場合、改善に向けた取組方針)

②南幹線ブロック化は、過去に入札不調となったため、入札不調対策として、交通規制や現場条件、施工方法、施工延長、発注時期等の再検討を行い、 令和8(2026)年7月に工事発注した。7月30日に開札があったが、応札者辞退となったため、発注方法を見直し、再度、今年度工事発注する。 ③小鹿減圧ブロック化(縮小)は、県河川を横断する腐食した水道管について令和8(2026)年度に基本設計を行うとともに県土木と協議を進め、令和9(2027)年度に実施設計を実施する。
--

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
配水ブロック再編が完了した割合	目標値		0% (0/14箇所)	7% (1/14箇所)	21% (3/14箇所)	36% (5/14箇所)
	実績値	0% (0箇所)	7% (1/14箇所)	7% (1/14箇所)	7% (1/14箇所)	
R7成果指標算出式		1箇所÷全14箇所×100=7%				

政策2 施策(2)	③ 水道管・施設の漏水対策 【水道】	計画掲載ページ 〔P45～46〕
--------------	--------------------	---------------------

活動目標	水道管総延長約2,700kmのうち、送水管・配水本管・配水管の漏水調査を行うとともに水道施設内についても計画的に漏水調査を行い、積極的な漏水対策を実施する。 また、新しい技術の導入として、令和6(2024)年度に人工衛星データ等のAI解析による水道管の漏水リスク評価を行い、その評価結果を基に、漏水リスクの高い箇所に調査範囲を絞り込み、市民生活に影響する大規模な漏水の早期回避を図っていく。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
管調査延長	目標値		6,105km	2,477km	1,168km	1,230km	1,230km
	実績値	7,443km		2,477km	1,219km	1,265km	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		116,908	105,339	75,931	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円) ※見込み		116,908	73,013	43,956	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	0	0	
施設調査数	目標値		23施設	3施設	9施設	11施設	—
	実績値	0施設		3施設	9施設	11施設	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		4,730	28,790	1,199	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円) ※見込み		4,730	935	1,199	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	0	0	

自己評価	説 明
a	水道管の漏水対策について、(活動指標)管調査延長を令和7(2025)年度計画「1,230km」に対し、「1,265km」実施した。【活動指標達成状況:102.8%】 具体的な取組として、令和6(2024)年度実施の漏水リスク評価の結果を基に、漏水リスクの高い箇所及び、漏水リスクが低いが修繕履歴の多い箇所において路面音聴調査を1,265km実施し、この結果、調査延長1km当たりの漏水発見件数の割合は、令和5(2023)年度0.12件/kmから令和7(2025)年度0.20件/kmとなった。 水道管の漏水調査を実施する事により、漏水箇所を早期に発見し修繕を完了させたことで、(成果指標)断水が1日以上となる漏水事故件数は令和7(2025)年度計画「0件」に対し、実績「0件」となった。【成果指標達成状況:100%】 水道施設の漏水対策について、(活動指標)施設調査数を令和7(2025)年度計画「11施設」に対し、「11施設」実施した。【活動指標達成状況:100%】 具体的な取組として、蒲原第1浄水場外10施設の漏水調査を実施した結果、漏水箇所が無かったため、(成果指標)断水が1日以上となる漏水事故件数は令和7(2025)年度計画「0件」に対し、実績「0件」となった。【成果指標達成状況:100%】 水道管・水道施設の漏水対策を進めることにより、市民生活に影響する漏水を早期発見・早期修繕していく。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
断水が1日以上となる漏水事故件数	目標値		—	0件	0件	0件
	実績値	—	—	0件	0件	
有収率 (参考指標)	実績値	82.3%	81.2%	79.9%	78.3%	

政策2 施策(2)	④ 下水道施設の統廃合 【下水道】	計画登載ページ 〔P47～48〕
--------------	-------------------	---------------------

活動目標	清水南部浄化センターに流入している汚水の一部を静清浄化センターへ切り替える処理区切替工事を実施し、令和8(2026)年度までに完了します。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
処理区 切替工事	目標値		完了	詳細設計	施工	施工	完了
	実績値	基本設計		詳細設計 (実施中)	施工	施工	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		83,900	224,312	901,952	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	78,700	212,648	
		決算(千円) ※見込み		5,199	77,714	172,744	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		78,700	212,648	857,468	

自己評価	説 明
a	下水道施設の統廃合について、(活動指標)処理区切替工事は令和7(2025)年度計画「施工」に対し「施工」となった。【活動指標達成状況：目標どおり】 具体的な取組みとして、静清処理区編入切替管渠工事のうち、令和6(2024)年度に発注済の下流区間を施工し、令和7(2025)年度に発注した上流区間を着手した。この結果、(成果指標)処理区切替工事整備による維持管理費縮減効果は、令和7(2025)年度計画「0円」に対し実績「0円」である。【成果指標達成状況：目標どおり】 下水道施設の統廃合を進めることにより、清水南部浄化センターへ送水していた宮加三ポンプ場が不要となることで維持管理費の縮減を図ることができ、持続可能な管・施設の運用につながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
処理区切替工事整備による 維持管理費 縮減効果 (約1,800万円/年)	目標値		0円	0円	0円	0円
	実績値	0円	0円	0円	0円	
R7成果指標算出式		宮加三ポンプ場の廃止に伴う維持管理費縮減額効果額 約1,800万円/年 (※宮加三ポンプ場の維持管理費R3実績をもとに算出) 令和7(2025)年度時点では、宮加三ポンプ場が稼働しているため縮減額はない。				

政策2 施策(3)	① 水質の管理・監視【水道】	計画掲載ページ 〔P49～50〕
--------------	----------------	---------------------

活動目標	「静岡市水質検査計画」に基づき、法令で定める回数を上回るきめ細やかな水質検査を実施する。検査の信頼性の確保のため、水道GLPに裏付けされた検査技術を持つ水質検査担当者を育成していく。また、水質の変化や異常に対して迅速に対応するため、水質を24時間連続で監視する水質監視装置を令和8(2026)年度までに16台更新する。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
水質検査担 当者の育成 (認定を取得し た人数)	目標値		延べ80人	延べ20人	延べ20人	延べ20人	延べ20人
	実績値	延べ70人		延べ25人	延べ21人	延べ23人	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	
水質監視装置 の更新	目標値		16台	4台	4台	4台	4台
	実績値	16台		4台	4台	4台	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		21,000	23,638	26,179	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		20,900	22,440	25,300	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	

自己評価	説 明
a	水質の管理・監視について、(活動指標)水質検査担当者の育成を令和7(2025)年度計画「延べ20人」に対し、「延べ23人」実施した。【活動指標達成状況:水質検査担当者の育成 115%】また、(活動指標)水質監視装置の更新を令和7(2025)年度計画「4台」に対し、「4台」計画通り実施した。【活動指標達成状況:水質監視装置の更新 100%】 具体的な取組として、令和7(2025)年度水質検査計画に基づく水質検査を実施し、この結果、(成果指標)平均残留塩素濃度は、令和7(2025)年度計画目標値 0.3mg/Lに対し、実績値 0.3mg/Lとなった。また、(成果指標)水質基準達成率は、全ての検査箇所において水道水質基準を満たしていることを確認した。【成果指標達成状況: 100%】 水質の管理・監視を継続することにより、安全でおいしい水の安定的な供給につながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
平均残留塩素濃度 (0.4mg/L以下を維持)	目標値		0.3mg/L	0.3mg/L	0.3mg/L	0.3mg/L
	実績値	0.3mg/L	0.3mg/L	0.3mg/L	0.3mg/L	
水質基準達成率 (水質基準項目)	目標値		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	実績値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
R7成果指標算出式		平均残留塩素濃度(3月末時点) =全ての検査地点(52か所)の残留塩素濃度合計値÷測定回数(365日間×52 か所)				

政策2 施策(3)	② 鉛製給水管の更新【水道】	計画掲載ページ 〔P51～52〕
--------------	----------------	---------------------

活動目標	「静岡市鉛製給水管更新計画」に基づき、平成21(2009)年度末時点で64,596箇所あった鉛製給水管を、令和4(2022)度末までに42,114箇所ポリエチレン製等給水管に更新した。これを令和8(2026)年度末までに15,200箇所実施し、57,314箇所の更新を完了する。
------	---

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
鉛製給水管の 更新	目標値		15,200箇所	3,800箇所	3,800箇所	3,800箇所	3,800箇所
	実績値	15,157箇所		3,802箇所	3,804箇所	3,802箇所	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		183,300	232,000	196,500	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円) ※見込み		183,217	223,979	196,419	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	0	0	

自己評価	説 明
a	鉛製給水管更新について、(活動指標)鉛製給水管の更新を令和7(2025)年度計画「3,800箇所」に対し、「3,802箇所」を実施した。【活動指標達成状況:100.1%】 具体的な取組として、鉛製給水管更新修繕で934箇所、配水管布設替工事で102箇所、漏水修繕等で2,766箇所を実施し、この結果、(成果指標)鉛製給水管率は、令和7(2025)年度計画「3.6%」に対し実績「3.4%」となった。【成果指標達成状況:105.9%】 鉛製給水管の更新を進めることにより安全でおいしい水の安定的な供給につながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
鉛製給水管 率 (鉛製給水管 の残存率)	目標値		6.0%	4.8%	3.6%	2.4%
	実績値	7.3%	6.0%	4.7%	3.4%	
R7成果指標算出式		鉛製給水管率(給水戸数に対する鉛製給水管の残存割合) = R7年度鉛製給水管残存数11,074件/R7年度給水戸数321,939件×100 = 3.4%(%)				

政策3 施策(1)	① 下水道計画区域内の整備【下水道】	計画掲載ページ [P53～54]
--------------	--------------------	---------------------

活動目標	「静岡市汚水処理計画」に基づき、令和4(2022)年度末までに9,066haの整備が完了しているが、令和8(2026)年度末までに新たに80ha整備し、9,146haの整備が完了する。
------	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
下水道整備済 面積	目標値		80ha	20ha	20ha	20ha	20ha
	実績値	130ha		20ha	16ha	13ha	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		1,304,785	1,431,164	1,163,215	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		598,384	785,956	909,358	
		決算(千円) ※見込み		918,779	1,045,192	642,608	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		769,956	909,358	808,255	

([前年度の評価が「a」未満の場合]改善に向けた取組状況)

令和6(2024)年度発注工事で、施工の支障となる民地樹木の張出し箇所があり道路管理者を通した処理に期間を要したことや、岩盤層で掘削作業に時間を要した箇所があったため、令和6(2024)年度内に完了しないこととなったが、遅滞なく現場作業が完了するよう調整を図った結果、工事完了済み。

自己評価	説 明
C	下水道計画区域内の整備について、(活動指標)下水道整備を令和7(2025)年度計画「20ha」に対し「13ha(13.65ha)」実施した。【活動指標達成状況:68.3%】 具体的な取組として、中島処理区大谷地区、静清処理区飯田地区、興津地区等の整備を実施した。この結果、(成果指標)下水道処理人口普及率は、令和7(2025)年度計画「88.3%」に対し実績「88.9%」となった。【成果指標達成状況:100.7%】 活動指標は目標を下回ったが、人口減少の影響もあり、成果指標は目標を上回った。

(自己評価が「a」以外となった理由等)

宮川・水上土地区画整理事業地内において、区画整理事業による造成等の進捗が遅れており、工事施工可能箇所が限定されているため、工事発注に遅れが生じた。

(自己評価が「a」未満の場合、改善に向けた取組方針)

区画整理組合との工程調整を密に行い、造成等の施工予定を踏まえて遅滞なく工事発注できるよう発注準備を進める。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
下水道処理 人口普及率	目標値		88.2%	88.2%	88.3%	88.4%
	実績値	88.1%	88.3%	88.6%	88.9%	
R7成果指標算出式		下水道処理人口普及率 (静岡市で公共下水道が使用可能な人口／静岡市の行政人口)×100(%) =(591,648／665,330)×100 =88.9%				

政策3 施策(1)	② 水洗化戸数の増加【下水道】	計画掲載ページ 〔P55～56〕
--------------	-----------------	---------------------

活動目標	公共下水道の未接続世帯に対する臨戸訪問や文書勧告などの下水道接続推進活動により、水洗化戸数の増加を図る。
------	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
臨戸訪問の 実施	目標値		延べ 172,000戸	延べ 40,000戸	延べ 44,000戸	延べ 44,000戸	延べ 44,000戸
	実績値	延べ 172,058戸		延べ 41,437戸	延べ 40,338戸	延べ 39,669戸	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		1,111	1,378	1,311	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円) ※見込み		1,006	1,123	1,048	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	0	0	

自己評価	説 明
a	水洗化戸数の増加について、(活動指標)臨戸訪問の実施を令和7(2025)年度計画「延べ44,000戸」に対し、「延べ39,669戸」実施した。【活動指標達成状況:90.2%】 具体的な取組として、通常の推進活動に加え、下水道接続推進強化期間における接続依頼、新規供用開始区域を下水道接続推進重点区域に定めた重点的な活動などを実施し、この結果、(成果指標)水洗化率(戸数)は、令和7(2025)年度計画「92.4%」に対し実績「92.4%」となった。【成果指標達成状況:100%】 水洗化戸数の増加を進めることにより、公共用水域の水質保全や公衆衛生の向上につながる。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
水洗化率 (戸数)	目標値		91.4%	91.9%	92.4%	92.9%
	実績値	91.1%	91.8%	92.0%	92.4%	
R7成果指標算出式		273,005戸(R7水洗化戸数)／295,460戸(R7処理区域内戸数)				

政策4 施策(1)	① 料金等納入のキャッシュレス決済推進 【共通】	計画登載ページ 〔P57～58〕
--------------	--------------------------	---------------------

活動目標	お客様のニーズに応えるとともに効率的に事業を実施するため、水道料金及び下水道使用料の口座振替やスマートフォンアプリによる納入に加え、クレジットカードによる納入を導入し、キャッシュレス決済による納入を推進していく。
------	--

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
水道料金及び 下水道使用料 の決済に係る 利便性の向上	目標値		クレジットカード 決済の導入、さ らなる利便性向 上のための調 査・検討	クレジットカード 決済の導入に向 けた準備、さら なる利便性向上 のための調査・検 討	クレジットカード 決済の導入、さ らなる利便性向 上のための調 査・検討	さらなる利便性 向上のための調 査・検討	さらなる利便性 向上のための調 査・検討
	実績値	スマホ決済の 導入		・クレジットカード 決済に必要な サイト構築業務 の実施(R5～6) ・スマホアプリ (楽天ペイ、d払 い)の追加導入	R6.10月からク レジットカード決 済受付開始、 R6.12月検針分 から決済開始	R7.10月から web口振受付 サービス運用開 始	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		0	6,695	4,195	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円)		0	2,559	3,451	
		繰越(千円) (当該年度→翌年度)		0	0	0	

自己評価	説 明
a	料金等納入のキャッシュレス決済推進について、(活動指標)「さらなる利便性向上のための調査・検討」に対し、令和7(2025)年10月から「web口振受付サービス」を開始した。令和7(2025)年度末時点で約1,800件の利用があり、今後も継続的に周知を図り利用を促進する。【活動指標達成状況:目標どおり】 この結果、(成果指標)キャッシュレス決済率(収納件数の構成比)は令和7(2025)年度計画「76.08%」に対し実績「76.59%」となった。【成果指標達成状況:100.67%】 料金等納入のキャッシュレス決済を推進することにより、お客様のニーズに応えるとともに効率的に事業を実施する。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
キャッシュレス決済率 (収納件数の構成比)	目標値		75.76%	75.88%	76.08%	76.28%
	実績値	74.01%	76.46%	76.72%	76.59%	

R7成果指標算出式	キャッシュレス決済率 $((\text{口座振替件数}1,377,670\text{件} + \text{スマホ決済件数}115,716\text{件} + \text{クレジットカード決済件数}38,071\text{件}) / \text{総収納件数}1,999,424\text{件}) \times 100 = 76.59\%$
-----------	---

政策5 施策(1)	① 人材育成の推進 【共通】	計画登載ページ 〔P59～60〕
--------------	----------------	---------------------

活動目標

持続可能な事業運営に必要な技術や知識を確保するため、局内にて実施される研修及び外部機関が実施する専門研修などに参加する。また、将来にわたって必要とされる技術を整理し、継承するための仕組みを検討する。

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
内部研修への 参加 (延べ人数)	目標値		6,000人	1,500人	1,500人	1,500人	1,500人
	実績値	2,800人		2,530人	3,360人	4,078人	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		88	110	309	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円) ※見込み		88	110	309	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	0	0	
外部研修への 参加 (延べ人数)	目標値		540人	135人	135人	135人	135人
	実績値	270人		102人	347人	431人	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		7,436	8,948	10,535	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円) ※見込み		5,117	4,141	7,499	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	0	0	
e-ラーニング 研修受講	目標値		8回	2回	2回	2回	2回
	実績値	8回		2回	2回	2回	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		0	0	0	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		0	0	0	
		決算(千円) ※見込み		0	0	0	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		0	0	0	

自己評価	説 明
a	職員の技術習得について、(活動指標)内部研修への参加(延べ人数)を令和7(2025)年度計画1,500人に対し、4,078人参加した。【活動指標達成状況:271.9%】 具体的な取組として、各課にて事業運営に必要な研修を主体的に実施し、この結果、(成果指標)内部研修時間は、令和7(2025)年度計画10.3時間/人に対し15.7時間/人となった。【成果指標達成状況:152.4%】 (活動指標)外部研修への参加(延べ人数)を令和7(2025)年度計画135人に対し、431人参加した。【活動指標達成状況:319.3%】 具体的な取組として、新たに上下水道事業に従事することとなった職員が外部研修へ参加したこと等により、この結果、(成果指標)外部研修時間は令和7(2025)年度計画8.5時間/人に対し7.1時間/人となった。【成果指標達成状況:83.5%】 (活動指標)e-ラーニング研修受講を令和7(2025)年度計画2回に対し、2回実施した。【活動指標達成状況:100%】 具体的な取組として、水道事業及び下水道事業に関するエスナビを実施し、積極的な受講を促した結果、(成果指標)e-ラーニング研修受講率は、令和7(2025)年度計画100.0%に対し実績100.0%となった。【成果指標達成状況:100.0%】 職員の技術習得を進めることにより、持続可能な事業運営につながる。 単年度目標に対し、活動指標はすべて目標値以上の達成状況となっているが、成果指標の外部研修時間の実績が目標値を下回っていることから、「a」評価の判断とした。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
内部研修 時間	目標値		10.1時間/人	10.2時間/人	10.3時間/人	10.4時間/人
	実績値	8.8時間/人	19.6時間/人	17.3時間/人	15.7時間/人	
外部研修 時間	目標値		8.5時間/人	8.5時間/人	8.5時間/人	8.5時間/人
	実績値	7.2時間/人	4.0時間/人	5.5時間/人	7.1時間/人	
e-ラーニング 研修受講率	目標値		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	実績値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
R7成果指標算出式		内部研修時間:5294.1時間/337人=15.7時間/人 外部研修時間:2400.87時間/337人=7.1時間/人				

政策5 施策(2)	① 企業債残高の適正な管理 【共通】	計画登載ページ 〔P61～62〕
活動目標	将来の支払利息が過大とならないよう、企業債残高を適正に管理する。	

(活動指標)

実施内容			R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
水道事業	企業債借入額	目標値		167億円	55億円	36億円	39億円	37億円
		実績値	85億円		34億円	29億円	30億円	
			事業の繰越に伴う 翌年度借入(予定)		20億円	17億円	40億円	
	元金償還金	目標値		92億円	23億円	23億円	23億円	23億円
		実績値	94億円		23億円	23億円	24億円	
下水道事業	企業債借入額	目標値		359億円	129億円	81億円	76億円	73億円
		実績値	343億円		69億円	61億円	67億円	
			事業の繰越に伴う 翌年度借入(予定)		36億円	30億円	29億円	
	元金償還金	目標値		376億円	105億円	93億円	89億円	89億
		実績値	422億円		105億円	93億円	90億円	

自己評価	説 明
a	【水道事業】企業債残高の適正な管理について、(活動指標)企業債借入額を令和7(2025)年度計画「39億円」及び令和6年度からの繰越「17億円」に対し、「30億円」の実施及び「40億円」の繰越となった。【活動指標達成状況:75.0%(※1)】また、(活動指標)元金償還金を令和7(2025)年度計画「23億円」に対し、「24億円」実施した。【活動指標達成状況:104.3%(※2)】 具体的な取組として、国庫補助金の活用に伴う事業の前倒しの実施による企業債の借入(全額翌年度借入予定)を行い、この結果、(成果指標)「年度末における企業債残高」は、令和7(2025)年度計画「486億円」に対し実績が「459億円」、繰越が「40億円」となった。【成果指標達成状況:97.3%(※3)】 【下水道事業】企業債残高の適正な管理について、(活動指標)企業債借入額を令和7(2025)年度計画「76億円」及び令和6年度からの繰越「30億円」に対し、「67億円」の実施及び「29億円」の繰越となった。【活動指標達成状況:109.4%(※1)】また、(活動指標)元金償還金を令和7(2025)年度計画「89億円」に対し、「90億円」実施した。【活動指標達成状況:101.1%(※2)】 具体的な取組として、企業債の借入と償還を計画的に行い、この結果、(成果指標)「年度末における企業債残高」は、令和7(2025)年度計画「1,337億円」に対し実績が「1,297億円」、繰越が「29億円」となった。【成果指標達成状況:100.8%(※3)】 企業債残高を適正に管理することにより、将来の支払利息を抑制し、事業を安定的に継続することにつながる。

※1 算出式: $\frac{(\text{目標値} + \text{前年度からの繰越}) - (\text{実績値} + \text{翌年度への繰越})}{(\text{目標値} + \text{前年度からの繰越})} \times 100(\%) + 100(\%)$

※2 算出式: $\frac{\text{実績値} - \text{目標値}}{\text{目標値}} \times 100(\%) + 100(\%)$

※3 算出式: $\frac{\text{目標値} - (\text{実績値} + \text{翌年度への繰越})}{\text{目標値}} \times 100(\%) + 100(\%)$

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
(水道事業) 年度末における 企業債残高	目標値		469億円	480億円	486億円	500億円 513億円
	実績値	437億円	447億円 (20億円はR6へ繰越)	453億円 (17億円はR7へ繰越)	459億円 (40億円はR8へ繰越)	
(下水道事業) 年度末における 企業債残高	目標値		1,412億円	1,377億円	1,337億円	1,321億円 1,310億円
	実績値	1,388億円	1,353億円 (36億円はR6へ繰越)	1,320億円 (30億円はR7へ繰越)	1,297億円 (29億円はR8へ繰越)	

(成果指標の修正理由)

令和7(2025)年度の成果指標実績値の確定に伴い、当該実績値及び令和8(2026)年度の活動指標計画値を基に、令和8(2026)年度の成果指標目標値を修正した。

政策5	② 収納率の向上【共通】	計画登載ページ 〔P63～64〕
施策(2)		

活動目標

口座振替勧奨による納期内納付の推進と、早期催告、給水停止、法的措置等を強化し、効率的な滞納整理を実施していくことで収納率の向上に努める。

(活動指標)

実施内容		R1～4年度 (2019～2022) 計	R5～8年度 (2023～2026) 計	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
水道料金・下水道料金・下水道使用料の口座振替勧奨	目標値		30,800件	7,700件	7,700件	7,700件	7,700件
	実績値	30,800件		7,887件	7,668件	7,958件	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	
水道料金・下水道使用料の使用者に対する強制徴収	目標値		実施	実施	実施	実施	実施
	実績値	実施		実施	実施	実施	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	
受益者負担金一括納付の勧奨	目標値		12回	3回	3回	3回	3回
	実績値	12回		3回	3回	3回	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	
受益者負担金の受益者に対する強制徴収	目標値		実施	実施	実施	実施	実施
	実績値	実施		実施	実施	未実施	
	事業費	予算(千円) (現計予算)		—	—	—	
		繰越(千円) (過年度→当該年度)		—	—	—	
		決算(千円) ※見込み		—	—	—	
		繰越(千円) ※見込み (当該年度→翌年度)		—	—	—	

自己評価	説 明
a	収納率の向上について、(活動指標)水道料金・下水道使用料の口座振替勧奨を令和7(2025)年度計画「7,700件」に対し、「7,958件」実施した。【活動指標達成状況:103.35%】 (活動指標)水道料金・下水道使用料の使用者に対する強制徴収を計画どおり実施した。【活動指標達成状況:目標どおり】 (活動指標)受益者負担金一括納付の勧奨を、令和7(2025)年度計画「3回」に対し、「3回」実施した。【活動指標達成状況:100%】 (活動指標)受益者負担金の強制徴収は、前年度までに実施したことにより基準を満たす対象案件がなかった。 具体的な取組として、水道料金は、支払督促を行い、下水道使用料は差押えを実施し、この結果、(成果指標)水道料金収納率は、令和7(2025)年度計画「98.51%」に対し実績「99.14%」、下水道使用料収納率は、計画「98.52%」に対し実績「99.01%」、受益者負担金収納率(現年)は、計画「94.84%」に対し実績「98.42%」と目標値を上回った。同収納率(過年)は、計画「14.73%」に対し実績「12.09%」となり目標値を下回る結果となり、今後改善をしていく必要がある。 しかしながら、全体実調定額は99%以上を占める水道料金及び下水道使用料の実績値は、目標値を上回る大幅な更新であることも考慮して、成果指標達成状況は、全体の実調定額合計に占める実収入金額合計の収納率で評価した。【成果指標達成状況:99.05%】 以上、収納率の向上により、財政の健全化を図り、安定した事業経営が持続していく。

《参考》

(成果指標)

指標名		R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)
水道料金 収納率	目標値		98.25%	98.50%	98.51%	98.54%
	実績値	98.07%	98.33%	99.04%	99.14%	
下水道使用料 収納率	目標値		98.21%	98.49%	98.52%	98.55%
	実績値	98.05%	98.24%	98.90%	99.01%	
受益者負担金 収納率 上段:現年/ 下段:過年	目標値		94.74%	94.79%	94.84%	94.89%
	実績値	98.42%	98.13%	95.77%	98.42%	
	目標値		14.63%	14.68%	14.73%	14.78%
	実績値	15.69%	15.01%	7.66%	12.09%	
R7成果指標算出式		水道料金収納率(現年度:5月末、過年度3月末の合計) (実収納金額)10,778,176,801円/(実調定額)10,871,976,015円×100% =99.14% 下水道使用料収納率(現年度:5月末、過年度3月末の合計) (実収納金額)10,344,991,785円/(実調定額)10,447,974,177円×100% =99.01% 下水道事業受益者負担金収納率(現年度:5月末、過年度3月末) 現年(実収納金額)38,894,160円/(実調定額)39,519,700円×100%=98.42% 過年(実収納金額)633,090円/(実調定額)5,238,380円×100%=12.09%				